

「BELIEVE」

BELIEVE
2014
夏号
VOL.49

特集 **「安心して安全な『おくすり治療』を受けていただくために」**
薬剤部



20140102 尾柳佳枝 ・制作年/2014 ・素材/クレヨン、アクリルガッシュ、色鉛筆、カーボン紙、紙

シリーズ **情熱の白衣 医師の素顔④9** 呼吸器内科部長 **西坂 泰夫**

- 食だより(塩分)／がんサポートチームからのお知らせ／お薬ミニ知識
- 「かかりつけ医」をお持ちですか?／食中毒が心配な季節です

大阪赤十字病院の理念

わたしたちは
人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

患者さんの権利

1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります





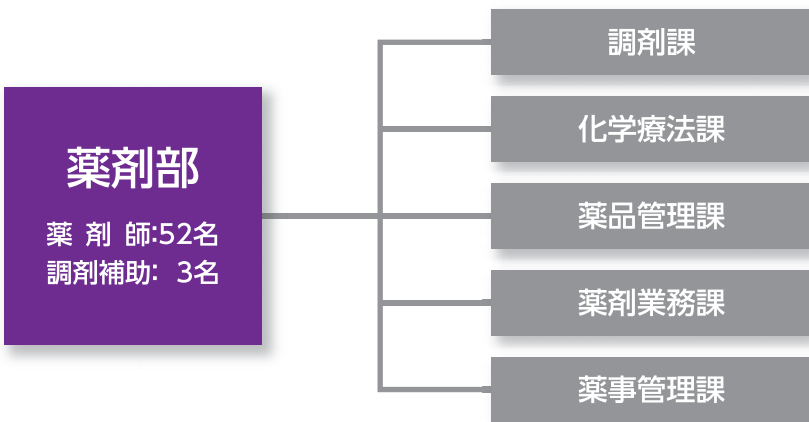
薬剤部長
小林 政彦

薬

剤

部

◀薬剤部、計55名。
5つの課で構成されています。



※以下、それぞれ実績データはすべて2014年3月のものです。

調剤(内服・外用)

基本的に外来患者さんは全面院外処方のため、入院患者さんの調剤が中心です。錠剤・カプセル剤・外用剤を調剤する「計数調剤」と、粉薬や水薬を調剤する「計量調剤」があります。安心して安全なおくすり治療、を受けていただけるように、全自動錠剤分包システムや散薬監査、全自動散薬分包システムを導入しています。また、くすり同士の相互作用などをチェックし、処方せんに基づいた正確な調剤を行っています。



■処方せん枚数(月)／
入院:15,235枚、外来:3,033枚、
院外処方せん発行率:85.8%



調剤(注射)

患者さんの治療に使われるおくすりの用法用量に間違いはないか、注射薬同士での併用に問題はないかなどのチェックをした後、患者さん一人ひとりに対して注射薬をセットし、カートで毎日病棟へ搬送しています。全自動注射薬払出システムを導入し、効率的かつ正確に調剤を行っています。



■処方せん枚数(月)／
入院:55,988枚、
外来:4,929枚

薬剤部では、患者さんに安心して安全なおくすりを提供できるように、日々努めています。薬剤部の業務は、主に1階と2階、そして病棟で行っています。1階では、調剤、製剤業務、2階では、医薬品情報、治療などの業務を行っています。また、新しく4階外来通院治療センターでも業務を行うようになり、また、普段、外来ではなかなか薬剤師を見かけることが少ないと思いますが、大半の薬剤師は入院患者さんのおくすりによる治療のサポートにあたっています。その他にもさまざまなことで、いろいろな業務を行っています。今回は、薬剤部の主な業務をご紹介します。

安心して安全な
“おくすり治療”を
受けていただくために

紫色のユニフォームが薬剤師の目印です。

どうぞお気軽に声をかけてください!



平成25年11月から、薬剤師のユニフォームが紫色になり、薬剤師がどこにいるか一目で分かるようになりました。患者さんはもちろんのこと、医師や看護師、その他のスタッフの皆さんも、気軽におくすりの相談をしていただければうれしいです。

高カロリー輸液混合調製業務

手術の後や食事が摂れないときなどの栄養状態を管理する目的で、高カロリー輸液を投与される場合があります。患者さんの状態によって内容の異なる高カロリー輸液を、無菌室で調製しています。

■TPN(高カロリー輸液混合)調製件数(月)/432件



手術室業務

手術室で日々使用する薬剤や麻薬を補充・管理しています。

■麻酔セット件数(月)/555件



医薬品情報

医薬品に関して、幅広く情報を収集し、院内向け情報紙の発行などを行っています。また、院内外からの問合せにも回答しています。外来においては、患者さんからの「おくすり相談」や、吸入指導などを行っています。

■DI室問合せ件数(月)/151件



治験

新しいおくすりが、広く患者さんの治療に用いられるようになるまでには、効き目や副作用を調べるための試験が行われます。その試験を「治験」と呼びます。医師や看護師、他のスタッフとともに治験業務の支援をしています。

■治験件数/33件

■取扱い領域/消化器内科、血液内科、神経内科 他



薬物血中濃度モニタリング(TDM)業務

免疫抑制剤の薬物血中濃度測定を行っています。必要時には、患者さん一人ひとりに対しての投与設計にも応じています。

■TDM(薬物血中濃度モニタリング)件数(月)/283件

■対象薬剤/シクロスポリン・タクロリムス



各種教室

糖尿病教室・喘息教室・肝臓病教室など各種教室の開催や、病棟での点眼指導に積極的に携わっています。

▶喘息教室



救済活動

赤十字の一員として救済活動に携わっています。また、災害救護の際に必要な薬剤を定期的に点検しています。薬剤師の視点から、医療セットの薬剤の見直しも行っていきます。



抗がん剤関連業務

外来や入院患者さんの抗がん剤無菌調製をしています。また、抗がん剤調製だけでなく、がん精通薬剤師が、患者さんごとの治療計画や処方内容を確認して、安全に治療が進められるよう努めています。さらに、他のスタッフとの連携を密にして、より安全で快適に治療を受けていただけるよう取り組んでいます。平成26年3月31日に外来通院治療センターが移転したことにより、薬剤師がより身近に患者さんに関わることができる環境となりました。今後は外来で抗がん剤治療を受けられる患者さんに対しても、おくすりの説明を行っていく予定です。



■抗がん剤調整件数(月)/入院:484件、外来:593件

病棟業務

全病棟に担当薬剤師を配置しています。患者さんに対し、服薬指導、薬歴管理、持参薬確認を行っています。得られた情報を医師や看護師と共有し、安全かつ効果的なおくすりの治療ができるようにしています。また、医薬品情報を医師や看護師などに提供したり、病棟における医薬品の使用状況の把握をしたりするなど、質の高い病棟薬剤業務をめざしています。

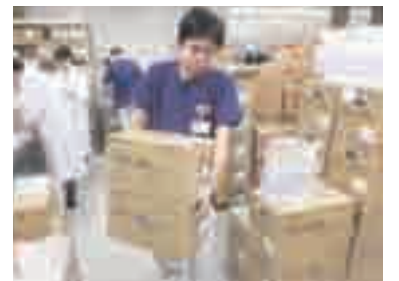
■病棟担当薬剤師/26名 ■薬剤管理指導件数(月)/2,001件



薬品管理

院内で扱うすべての医薬品の供給・管理を行っています。

■採用薬品数/院内:1,582品目、院外:621品目



製剤業務

治療上で必要で、かつ市販されていない薬剤を調製し、患者さん個別の薬物治療に対応しています。



■製剤薬品数/74品目

西坂 泰夫

呼吸器内科部長



YASUO NISHIZAKA

11月5日、大阪府生まれ。和歌山県立医科大学卒業後、京都大学医学部(内科)、大阪赤十字病院(内科、呼吸器科)研修医を経て、昭和62年京都大学結核胸部疾患研究所第1内科医員に。同年に当院呼吸器科に赴任し、主に感染症を専門とした診療に取り組む。平成25年呼吸器内科部長に就任した。

病気になる、患者さんを支える、
つらかった経験が自分を強くしてくれる。

患者の家族、
その立場になつて分かったこと。

幼少期に病気で入院・手術をしたこと。病気をきっかけに医師を志したこと。父と兄を病気で喪つたこと。患者の立場を経験し、今は医師として患者さんに接する西坂医師は、患者家族の立場も経験している。医師になつて20数年が過ぎ、昨年度部長に就任。さらに忙しく過酷にしているが、一度だけ「勤務医を辞めようか」と思ったことがあるという。「約10年前、父が病気になる、患者家族の立場となりました。父を見送つた後、すぐに兄も入院し、母は精神的にもかなりこたえたようです。患者さんの診療を抱えながら家族の看病をし、母も見守らないといけない状況で、今から考えると余裕がなかったように思います。」

「つらい思いもしたけれど、父親の主治医を務め、看取ることができた。「まさか最後に自分が主治

医になるとは思ってもみませんでした。私がすべきことだったんでしょね。いま、こういう話ができるのも、時間が経つたおかげです。時間が薬となつて、次第に自分を取り戻していったと思います。」

父と兄の看病を通して、西坂医師はさまざまな発見をしたという。「特に、兄が他院に入院していたということもあり、患者や家族への対応などで、『うちの看護師はすばらしいな』と感じることが多々ありました。また、面談室(デイルーム)のような、患者と家族と一緒に食事ができるほどの広い場所や大きな窓がある病院はなかなかありません。うちの病院にはいいところがたくさんあると思いました。」

そして、医師のあり方にも考えさせられることがあった。「患者さんが『ここが気になる』と訴えたときに、医師から『気にしないでいい』と言われると、患者さんそれぞれに言いえなくなつてしまふんですね。ちょっとした言葉や何気ない行為が、実はわれわれが考えているより、はるかに大きく患者さんに影響を与えていることにも気がつきました。診察時は、患者さんが話しやすいようにと心がけ

ていますが、患者さんの不安な気持ちに気づき、安心してもらうには、自分自身が心身ともにゆとりを持っていないといけないんだな、と実感しました。」

呼吸器内科は、がん、アレルギー、誤嚥肺炎などの感染症、と診る範囲が広い科。診察をし、治療を行い、治療していくすべてが、やりがいになるといふ西坂医師。呼吸器内科のスタッフは、現在13名ほど。ほとんどが若手で、西坂医師の息子さんの年齢とそう変わらないのだとか。

「少し前までは医師のなり手が少なかった科ですが、高齢化社会が続く限り、患者さんも増えていきますし、実際に志望者が増えてきました。自分が若手だった頃と比べて、言葉遣いに少し足りないところがあったり、マニュアルを重視し過ぎたりと、あちこちでギャップを感じながら、どう教えていこうかと考える毎日ですが、今は若手スタッフを育てることを一番にしていきたいですね。」



中学・高校とも卒業時に第2ボタン他、袖ボタンも手渡したことが「唯一の自慢」という学生時代(右)。中学から大学まで打ち込んだ軟式テニス。学生時代の成績は体育が一番良かったのだとか(左)。

広く診ることのできる
やりがいを、若手にも
経験してもらいたい。

看護師レポート◆49

一生懸命働く若手のために
自分が得てきたことを伝えたい

田村 八重子



専門的な仕事をしたい、看護師の職を選んだのはそんな思いがあったからです。また、学生時に父が事故で入院したことがあったのですが、父も母も担当の看護師さんのことを、とても尊敬していました。若い方で

したが、「看護師として人から尊敬される仕事なんだ」と感じたことを覚えていますね。

看護師になつて、ひと通り看護業務を経験し、「もうワンステップ上の専門的なことを学びたい」と思っていたときです。幹部研修を受ける機会に恵まれました。赤十字看護婦長適任証と看護学校の教員資格を取得でき、その後看護学校の教師としての仕事にも携わることができました。今、所属している科には、約30余名ほどの看護師や看護助手がいます。みんなとても真面目な人ばかりなので、大所帯でもまとめるのが大変だと思つたことはないですね。いかに安全を守りながら質の高い看護をしていけるだろうかと考えて取り組むのですが、患者さん、医師、看護師と毎日100人以上の人との関わりがある場所ですから、ときにはトラブルも起ります。いろいろなトラブルがありますが、私に対応すべきトラブルが無事に解決できたときには、ホッとしますね。

最近の楽しみは、花や野菜の栽培です。グリーンカーテンを作ろうとゴーヤを育てています。ゴーヤは毎年10数センチのものができるので、一人暮らしの看護師さんたちにおすそ分けしています。休みの日は、新鮮な野菜を買って、普段のおかずやお弁当に活用できる常備菜づくりをしていますね。



花や植物の水遣りは田村さんの日課。夏に向けてグリーンカーテンにするゴーヤを栽培中です。

今年の5月に大阪府看護事業功労者表彰をいただきました。長年勤めてきて、自分が「看護師に向いている」と思つたことはなかつたです。ですが、今、若い人たちが悩んでいることに対して、共感してあげられたり、アドバイスをしてあげられるのは、私が経験してきたことや乗り越えてきたことが、役に立っているんだと思います。有能な若手の人たちだからこそ、がんばってもらえるように支えていくのが、私の役割だと思つています。

YAEKO TAMURA

6月1日兵庫生まれ。大阪赤十字看護専門学校卒業後、当院に入職。循環器、眼科病棟など看護勤務を経て、日本赤十字社幹部看護婦研修所にて赤十字看護婦長適任証、看護教員資格を得る。病棟勤務の他にも訪問看護業務の立ち上げ、看護専門学校教師など多方面で活躍し、現在、血液内科・整形外科病棟看護師長。本年5月に大阪府看護事業功労者表彰を受けた。

食だより

塩分

栄養管理課 管理栄養士 山口 翔平

今回は、塩分の調節についてお話しします。昔から不作を恐れ、作物が腐らないように塩蔵・塩漬けにすることで、食品の保存を行ってきました。魚介類では「塩辛」、野菜類では「漬物」、畜肉類では「ハム、コンビーフ」など。現代においても、さまざまな形で、塩分は身近な食品に含まれています。

塩分の過剰摂取による身体への影響は、血圧、心臓、悪性新生物など多くの疾患に影響を及ぼします。なかでも、血圧は塩分と密接な関係にあり、高血圧症が日本の治療費に占める割合で1位となっています。現在、日本の塩分摂取量は、1日あたり男性約11g、女性約9gと、徐々に少なくなっていますが、今年、新たに報告された日本人食事摂取基準での塩分摂取目標量は、1日あたり男性8g未満・女性7g未満とされています。また、WHO(世界保健機関)の一般向けガイドラインでは、1日5g未満を強く推奨しており、日本人の摂取量は依然として高いままです。塩分を調節するために、今日からできることをご紹介いたします。

塩分を抑えるポイント

- なるべく塩分量を計測し、全体的に薄味を心がける。
- 香辛料や柑橘類などの塩分を含まない調味料を使う。
- 鮮度の良いものは生食したり、焦げ目をつけるなど調理法を工夫したり、香りや見た目目で食欲がそえられるようにする。
- 比較的、主菜は味を濃くし、副菜は薄くして、メリハリをつける。
※ただし、全体的に薄味を心がけること。
- 食卓には、醤油、ソースなどを置かない。
※せっかく薄味で作った料理に、味付けしてしまえば減塩できません。
- うどん、ラーメンなどの汁は残すこと。
中身の具材は野菜中心にする。漬物は控える。
- ハム、ウィンナーなどの肉の加工品、ちくわ、かまぼこなどの練り製品には、食品自体に塩分が含まれているため、使用頻度を減らす。



塩分は、気づかないところで摂取しているものです。日頃から食生活を改善するよう心がけましょう。意外と単純なことに、減塩のヒントが隠れているんですよ。気がつくかわるじやないですか。

お薬

ミニ知識



薬剤部 薬剤師 林 淳雄

正しいお薬の用法、ご存知ですか？

今回はお薬を飲むのに欠かせない服用方法、「用法」についてご紹介します。用法とは、お薬を飲むタイミングのことで、食事の時間に合わせて決められており、次のように分けられます。

- **起床時** 起きてすぐ(朝食の30分以上前)に服用します。
- **食前** 食事をする20~30分前を目安に服用します。食事によって吸収が低下するようなお薬は、この用法が選ばれます。
- **食直前** 食事をする直前(5~10分前)に服用します。一部の糖尿病薬などでは、この用法が選ばれます。食後の過血糖を抑えるお薬で、食後では期待する効果が現れないためです。
- **食直後** 食事を終えた直後に服用します。胃の中に食べ物がある状態でないと吸収が悪かったり、副作用が強くなったりするお薬は、この用法が選ばれます。
- **食後** 食後20~30分を目安に服用します。必ずしも30分待つ必要はなく、お腹が落ち着いた頃や食直後でも構いません。食後2時間程度は、胃の中に食べ物が残っていて胃に刺激が少なく、ほど良く吸収されるため、お薬の多くはこの用法が選ばれます。
- **食間** 食事と食事の間の空腹時のことで、食後2時間を目安に服用します。食事中ではありません。食事によるお薬の吸収低下や相互作用の防止、他のお薬の影響を避けるため、この時間に服用します。
- **寝る前** 就寝前に服用します。翌朝の便通を良くするための下剤や、寝つきを良くしたり夜間に目が覚めたりすることを抑える睡眠薬などは、この時間に飲みます。
- **頓服(頓用)** 定期的に服用するのではなく、必要なときに服用することです。痛み止めや解熱剤がその例です。



あくまでも、用法とはそのお薬にとって、効果が最も表れやすくなるタイミングです。多少時間がずれても問題はありません。あまり神経質になり過ぎず、上手にお薬と付き合いましょう。もう一度、ご自身のお薬の用法を確認してみてくださいいかがでしょうか？

がんサポートチームからのお知らせ vol.22

リハビリテーション科

理学療法士 三原 秀昭



がんとリハビリテーション

リハビリテーションと聞いて、多くの方はベッドの上で手や足を曲げ伸ばししたり、歩行器を使って歩いたりすることだと思われるのではないのでしょうか？ 実はリハビリテーションとは、多くの職種、例えば医師、看護師、薬剤師、理学療法士、ソーシャルワーカーなどが連携し、患者さんが社会復帰するためにサポートすることを言います。

病気によって、筋力が低下する、関節の動きが悪くなる、神経麻痺が原因で起こる「動作障害」に対して、私たち理学療法士は『起き上がる』『立ち上がる』『歩く』などの動作ができるように治療を行います。がんサポートチームにおいては、こういった動作障害に対する治療に加え、放射線治療や抗がん剤治療によって起こる全身の機能低下や、全身麻酔の手術によって起こる呼吸機能の低下に対する治療も行っています。治療前の動作に問題がない状態から、できる限り動作障害を起こさせないように、筋力を保持したり関節が固まらないようにしたり、予防的に治療を行うことも理学療法士の役割となっています。また、入院中に生じた動作障害に対する治療をはじめ、動作時の物的介助(手すりや杖の使用など)や、患者さんに合わせたベッドの高さを提案したり、ベッド周辺の環境を調整したり、患者さんとご家族を含めた退院指導も行っています。

理学療法士が、がんサポートチームに参加を始めてもうすぐ1年。今後も作業療法士や言語聴覚士などのリハビリテーションスタッフからの情報を、がんサポートチームへ提供しながら、患者さんがより良い生活を過ごせるよう検討していきます。チーム全体で連携を取りながら、患者さん一人ひとりをサポートしていきたいと思っております。



がん看護相談室

当院では、がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。

TEL:06-6774-5192 FAX:06-6774-5126

syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

「かかりつけ医」をお持ちですか？ 当院は地域との医療連携を推進しています

現在、国は病院や診療所・クリニックが役割を分担し、病気の診断や治療、検査などを行い、患者さんに地域全体で切れ目のない医療を提供する「地域完結型医療」を推進しています。

そのなかで、当院は地域の中核病院として、急性期医療、高度専門医療、救急医療の役割を担っており、これらの特長を最大限に活かすため、地域の診療所・クリニックとの積極的な医療連携に取り組んでいます。

患者さんには次のことについて、ご理解とご協力をお願いします。

●「かかりつけ医」を持ちましょう

「かかりつけ医」とは、身近な地域のなかで患者さんの日常的な診察（風邪などの初期治療、慢性疾患の対応、投薬など）や健康管理を行う診療所・クリニックなどの医師のことです。まずは「かかりつけ医」に受診しましょう。

「かかりつけ医」を持つメリット

- ①日頃の健康状態を「かかりつけ医」が把握しているので、病気について気軽に相談できます。
- ②身近にあり、待ち時間も比較的短く診察してもらうことができます。
- ③精密検査や入院が必要なときは、適切な病院を紹介してくれます。

●「かかりつけ医」からの紹介状を持って当院へ

当院での診療が必要な場合は、「かかりつけ医」の紹介状を持参し、受診されることをおすすめします。紹介状をお持ちいただくメリット

- ①「かかりつけ医」より予約が可能になり、待ち時間が短くなります。
- ②「かかりつけ医」によるこれまでの治療経過が分かり、速やかに適切な治療・検査を行うことができます。
- ③紹介状がない場合に「負担いただく、初診時の特定療養費（5,400円）」がかかりません。

●病状が落ち着いたら「かかりつけ医」へ

当院での治療・検査が終了し、病状が安定してきた患者さんには、「かかりつけ医」にお戻りいただきますので、ご理解ください。なお、病状の変化や定期的な検査により、当院での治療が必要な場合には、「かかりつけ医」から「紹介状」がいただければ、受診いただけます。

「かかりつけ医」がない患者さんへ

「かかりつけ医」の紹介をご希望される場合は、医師にご相談ください。資料（紹介状や検査結果など）を準備します。また、2階総合受付に「かかりつけ医紹介窓口」を設置しております。患者さんのご希望に添った「かかりつけ医」の情報（場所・診療時間・診療科など）をご案内いたしますので、お気軽にご相談ください。

医療連携のイメージ

かかりつけ医

日常的な診察や健康管理を行い、必要ときには適切な病院・診療科を紹介。

- ・初期的な治療
- ・慢性疾患の定期的な投薬
- ・健康相談
- ・訪問診療 など

地域完結型医療

医療連携により、患者さんに切れ目のない医療を提供

大阪赤十字病院

重症の患者さんや、救急の受け入れを中心に、専門的で高度な治療・検査を行う。

- ・救急医療（入院を要する疾患）
- ・専門的な治療
- ・高度機器を用いた検査
- ・入院治療や手術 など

食中毒が心配な季節です ~もしも食中毒になったら~

看護部 感染管理認定看護師 西 好美

◆食中毒について

食中毒とは、原因となる「細菌」や「ウイルス」が付着した食品を食べることによって、下痢・嘔吐・腹痛・発熱などの健康被害が起ることです。

細菌（O157などの腸管出血性大腸菌、サルモネラ菌など）は、温度や湿度などの条件が揃うと食品の中で増殖し、それを食べることで食中毒を起します。特に夏場に多く発生します。一方、ウイルス（ノロウイルスなど）は、食品の中では増殖しませんが、体内に入ると腸管内で増殖し、食中毒を起します。その他、毒キノコやフグなどの「自然毒」、殺菌剤などの「化学物質」も食中毒の原因となります。食中毒は暑い夏に起こるものと思われがちですが、実はさまざまな原因物質によつて1年中発生しています。

◆食中毒になった場合の対応

食中毒を起こして下痢や嘔吐を繰り返した身体は、脱水症状を起こしやすいので、水分と適量の塩分・糖分の補給が必要です。スポーツドリンクなどを活用するのも1つの方法です。嘔吐がある場合は、吐きやすい体位をとり、窒息しないよう気をつけてください。下痢止め薬は深刻な症状を引き起こすこともあり、自己判断での使用は危険です。食中毒は、ときには死に至ることもありますので、軽視は禁物です。重症化する前に、早めに医療機関を受診しましょう。



家庭内で食中毒が起きた場合、家族に二次感染を起こす危険があります。便や吐物の処理は、必ず手袋やビニール袋を使用し、処理後は石けんと流水で手を洗いましょう。トイレなど共通で触る部分の掃除も大切です。二次感染の感染経路は、手に付いた細菌やウイルスが、食事とともに口から入るといいます。トイレの後、食事の前、調理の前にも必ず石けんと流水で手を洗いましょう。

食中毒を防ぐ3つの原則・6つのポイント

3つの原則

細菌やウイルスを「付けない」「増やさない」「やっつける」

6つのポイント

- ①買い物………「新鮮な店で新鮮なものをスピーディーに」
- ②保存………「冷蔵庫を過信しない」
- ③下準備………「食材は流水で洗浄」「手・まな板・包丁は食材が変わるごとに洗浄」
- ④調理………「加熱調理は食中毒予防に最も有効」
- ⑤食事………「食べる前に石けんで手洗い」「できたらすぐ食べる」
- ⑥残った食品………「冷まして冷蔵庫へ」「温め直しは十分加熱」「怪しいものは捨てる」



Topics Box

トピックス & ニュース

Event

全日空より ＊しあわせの花＊すずらんの寄贈

6月11日(水)午後2時30分、ANAグループ(全日本空輸株式会社)の皆さまが、北海道で栽培されたすずらんの花の鉢植えと、手作りのしおりの贈呈に来院されました。昭和31年以来、今年で59回目を迎えるすずらんの寄贈は、当院をはじめ全国47カ所の赤十字施設で行われました。

この日、藤堂副院長はじめ職員が1階正面玄関でお迎えし、寄贈セレモニーが行われると、続いて客室乗務員と地上旅客係員の皆さんが、2階総合ホールや8A・11A病棟を訪問。しおりを患者さんやご来院の方々へ手渡されました。今回のしおりは、すずらんの絵の部分をごすと、すずらんの香りがするもので、配られている間もすずらんの爽やかな香りが漂い、患者さんやご来院の方々も喜ばれていました。

「しあわせ」という花言葉を持つすずらんが病院に届けられ、しあわせな笑顔が院内に広がりました。長年続く、全日空の方々のご厚意に感謝いたします。



Seminar

「大阪赤十字病院 市民公開講座」を開催します

テーマ:大腸がん治療の10年間の進歩
～患者さんにやさしい治療をめざして～

一般の方を対象とした公開講座を開催いたします。今回は、大腸がんの治療をテーマに、知りたいけれど聞く機会がなかった、さまざまなことを専門の医師が分かりやすくお話しします。どうぞお気軽にご参加ください。参加費は無料、事前の申し込みは不要です。ぜひ、ご来場ください。

■日時/平成26年10月25日(土)午後1時30分～午後3時

■場所/大阪赤十字看護専門学校 1階合同教室

■講師/大阪赤十字病院

消化器外科部副部長 山之口 賢

■問い合わせ先/診療情報管理課

TEL:06-6774-5111(内線 2302)

Seminar

「親と子の防災体験セミナー」を開催します

夏休みに小学4～6年生とその保護者を対象とした防災体験セミナーを、今年も開催いたします。詳細は当院ホームページに掲載しています。ぜひ、お申し込みください。

▶ <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>



昨年のセミナー実施風景

■日時/平成26年8月3日(日)

午前9時40分受付開始・午後2時30分終了予定

■場所/大阪赤十字病院敷地内

■定員/200組(先着順)

■申込締切日/7月18日(金)

■申込方法/メールかハガキに、①郵便番号 ②住所 ③電話番号 ④生徒氏名 ⑤生徒年齢 ⑥学校名 ⑦保護者氏名 ⑧保護者年齢 を記載の上、お申し込みください。

〈送付先〉大阪赤十字病院 国際医療救援部

e-mail: imr2@osaka-med.jrc.or.jp

住所:〒543-8555 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30

Event

院内災害訓練を実施します

10月1日(水)午後院内災害訓練を実施いたします。当日、予約のない診療(初診など)受付は、午前10時で終了させていただきますので、ご注意ください。

災害拠点病院に指定されている当院では、毎年、近隣地震災害を想定した実践型訓練を行っています。訓練中は、救急センターを含め全館休診とし、病院敷地内への立ち入りや、建物への出入りが規制されます。

皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



昨年の訓練の実施風景

Event

「あじさいコンサート」開催される

6月15日(日)午後2時から2階総合ホールで、恒例の「あじさいコンサート」が開催されました。

第1部は看護師による「ルパン3世のテーマ」など計5曲のエレクトーン演奏が披露され、第2部では医師のフルートと薬剤師のエレクトーン演奏が披露されました。ここでは、「ハナミズキ」や大ヒット映画「アナと雪の女王」に出てくる「Let It Go」など、メドレーやアンコールを含めて計10曲が演奏されました。「川の流れるように」の演奏では、ご来場の方々が歌声を合わせました。

この日は150人近い観客がご来場になり、「演奏全部が素晴らしかった」、「気分転換できた」、「また来たい」という声をいただき、盛会のうちに終了しました。

今回は「セプテンバーコンサート」として、9月中旬に開催する予定です。当院ホームページや院内ポスター等でご案内いたしますので、どうぞご期待ください。

▶ <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>



News

赤十字運動月間

日本赤十字社は毎年5月・6月を「赤十字運動月間」として、赤十字社の理念や活動を皆さまに知っていただき、活動資金のご協力をお願いしております。

当院でも5月に院内数カ所に募金箱を設置し、皆さまから2,339円のご寄付をいただきました。ご協力ありがとうございました。

●編集後記

今号の特集記事では、薬剤部をご紹介しました。当院では、患者さんに対して、さまざまな職種の職員がチームとなって医療に取り組んでいます。そのなかで、薬剤師は患者さんと関わりが多いお薬を扱っているにもかかわらず、普段どのような働きをしているのかが分かりにくい職種のひとつであると思います。

今号の特集で、薬剤部の活動をのぞき見ていただき、さまざまな職員がいろいろな面から治療に関わっていることを、感じていただければ幸いです。『びりーぶ』を通して、大阪赤十字病院のいろいろな顔をご紹介していきますので、今後もぜひ楽しみにしてください。

外来診療担当表

午前診療 午後診療

平成26年7月3日現在

	月	火	水	木	金	備考
消化器内科	津村	中島潤	邊見	丹家	齋藤	すべて予約制
	松田史	遠藤	圓尾	福原	西島	
	関川	丸井	大崎往	米門	佐田	
	大原	喜多	坂本梓	木村	圓尾	
	津村	中島潤	邊見	丹家	齋藤	
	松田史	遠藤	圓尾	福原	西島	
消化器内科(肝臓外来)	喜多	大崎往	木村	那須	西川	午後は予約制
糖尿病・内分泌内科	米光	南部	松田優	武呂	米光	すべて予約制
	武呂	武呂	米光	松田優	南部	
血液内科 (移植外来)	多田	水谷	右京	金子	平田	すべて予約制
	金子	平田	通堂	水谷	通堂	
	三谷			三谷		
	多田	水谷	右京	金子	平田	
	金子	平田	通堂	西	高橋慧	
		小西義		酒巻	右京	
リウマチ・膠原病内科	片山	船越(予約)	片山(予約)	伊藤博(予約)	伊藤能(予約)	すべて予約制
	片山	船越	片山	伊藤博	担当医	
腎臓内科	菅原	杉岡	大崎啓	土井洋	越川	すべて予約制
	越川	土井洋	菅原	大崎啓	菅原	
	菅原	杉岡	大崎啓	土井洋	越川	
	越川	土井洋	菅原	大崎啓	菅原	
循環器内科	担当医	田中	伊藤晴	長央	福地	すべて予約制
	林富		稲田		田中 (第2週を除く)	
	(第1・3・5週長央 第2・4週福地)	伊藤晴	林富	長央	福地 高橋由樹	
不整脈内科	佐野	牧田		牧田		すべて予約制
	(ペースメーカー・ICD 担当医)	牧田		佐野		
心臓血管外科		中山正(予約)	中山正(初診)		中山正(初診)	すべて予約制
		担当医	金光		坂本和 (末梢血管疾患専門外来 第2週のみ) 駒井	
小児科	住本(紹介初診)	(リウマチ・アレルギー外来 住本)	葭井	(腎臓・アレルギー 住本)	(血液外来 藤野)	すべて予約制
	(アレルギー外来 安西)	竹川	(アレルギー外来 肥田)	(神経外来 坂本晴)	金岡	
	(重心・神経外来 奥野)	(内分・代謝外来 野村)	(アレルギー外来 中道)	(心臓外来 杉田)	新居 (アレルギー外来 安西)	
小児外科	松川		松川			
外乳腺外科	山之口	伊藤剛	山浦	吉村文	中島研	すべて予約制
	下池	金谷	中島康	有本	岡田	
	奥村	有本	三浦	赤川	福田明	
	露木	(乳腺 露木)	(乳腺 仙田)	(乳腺新患 露木)	馬場園	
	山之口	伊藤剛	山浦	吉村文	中島研	
	下池	福田明	中島康	有本	岡田	
整形外科	渡邊	鈴木隆	坂本武	大浦	富原	専門外来は予約のみ すべて予約制
	富	別當	堤	別當	福田亜	
	(脊椎外来 坂本武)	(膝関節外来 大浦)	白	(スポーツ・肩外来 鈴木隆)	(第1・3・5週選選 第2・4週堤)	
リハビリテーション科	好井	好井	好井	好井	富原	
脳神経外科	担当医	山下	西村英	山下	金本	予約・紹介のみ
		金本		西村英	堀口	
		土井健		担当医		

	月	火	水	木	金	備考
神経内科	高橋牧	(隔週 樹田・高橋由佳子)	鈴木聡	金田	峠	すべて初診のみ
	峠	金田	篠藤	高橋牧	中村	すべて再診のみ
	中村	鈴木聡	金田	永井	鈴木聡	
呼吸器内科	(喘息外来を兼ねる 吉村千)			西坂	若山	※禁煙外来は 午後のみ
	森田	西坂	森田	多木	(喘息外来を兼ねる 吉村千)	
	池上	中川和	若山	有安	中川和	
	吉田真 (禁煙外来 若山)	多木 黄	吉田真	船造		
呼吸器外科	(セカンドオピニオン外来 (手術相談外来) 中出)	中出	渡辺裕		川邊	
産婦人科	午前:川島 午後:池田	芦原	池田	午前:堀内 午後:高松	安堂	午後は再診のみ ※月～金曜日 助産師外来あり
	安堂	午前:担当医 午後:徳重	高松	野々垣	担当医(初診)	
	野々垣	堀内	川島	芦原	長野	
泌尿器科	西村(紹介)	光森	前野	大久保	高橋毅	
	高橋毅	住吉	光森	前野	大久保	
	河野	西村(紹介)	住吉	住吉	河野	
	大久保	光森	前野	(前立腺外来 西村)		
	高橋毅	住吉	光森	前野	住吉	
眼科	午前:高山 午後:山田章	中川聡	午前:秋元 午後:川島祐	中川聡	大中	(火・木) 再診は予約のみ
	秋元	岡本洋	中川聡	岡本洋	田口	
	午前:廣井 午後:中川聡	高山(予約)	田口	廣井(予約)	高山	
	大中	廣井(予約)	廣井	山田章	午前:秋元 午後:廣井	
	川島祐		山田章	午後:(未熟児外来)高山 (黄斑外来2・4週 武蔵)	午前:川島祐 午後:山田章	
耳鼻咽喉科 頭頸部外科	田中 信	吉松	吉松		平塚	
	吉田 尚	平塚	田中 信		渡邊佳	
	隈部	吉田 尚	山田	渡邊佳	隈部	
皮膚科	立花	立花	八木	立花	太田	すべて予約制
	八木	小林	小林	八木	小林	
形成外科	一ノ名	太田	中島利	一ノ名	一ノ名	すべて予約制
		(爪外来・足病変外来 立花) (アトピー性皮膚炎外来 八木)	(ケミカルピーリング 高瀬・太田)		(乾燥外来 一ノ名)	
精神神経科	重吉	小田	重吉	担当医	内藤	
	和田	早川	大野	早川	本	
	横本	和田	土戸	三嶋	大野	
放射線診断科	藤堂	塩崎	前倉	梅岡	森本	診断
	前倉	(外科)	塩崎	(外科)	大嶋	検査(透視)
	森本・前倉	森本・梅岡	梅岡・森本	小嶋・塩崎	前倉・梅岡	検査(CT)
	梅岡	前倉	西尾	森本	大野	検査(MRI)
	塩崎	森本	(循環器科)	大嶋	藤堂	検査(RI)
		岡田・西尾	塩崎・前倉	森本・前倉	大嶋・塩崎	検査(血管造影)
放射線治療科	石垣	遠山		遠山	石垣	
	遠山	石垣	担当医	石垣	遠山	
	遠山	石垣	担当医	石垣	遠山	
	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	
歯 口腔外科	井上	杉立	本橋	担当医	担当医	すべて初診(紹介のみ)
	杉立	本橋	杉立		杉立	すべて再診(予約制)
	本橋	井上	井上		井上	

異動等により変更になる場合があります。当院ホームページの各診療科のご案内をご覧ください。各料外来にお問い合わせください。

- 受付時間(月～金) 〈診療開始は午前8:45からです〉
初診の方/月曜日～金曜日 8:30～11:30 再診の方/月曜日～金曜日 8:00～11:45
- 休診日 土曜日・日曜日・祝日・5月1日(本社創立記念日)・12月29日～1月3日
- 診察券 診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会 〈病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護師にご相談ください〉
平日/14:00～19:00 休診日/10:00～12:00、14:00～19:00 小児病棟(平日・休診日とも)/14:00～19:00
- 保険証等 保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。
また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

お問い合わせ/TEL:06-6774-5111(代表)
〈大阪赤十字病院〉http://www.osaka-med.jrc.or.jp/
〈赤十字全般〉http://www.jrc.or.jp/



■平成22年12月1日より
当院は敷地内全面禁煙です

当院は平成22年12月1日より、敷地内全面禁煙を実施しています。ご理解とご協力をお願いします。

